

栃木市文化財保存活用地域計画（素案）の作成について

1. 計画の概要

社会環境の変化の中、市民と連携し地域の歴史や文化を知り、学び文化財を継承することは本市にとってきわめて重要である。本計画作成は、関係計画と整合を図りつつ、課題検証を踏まえ、中長期的方針や事業推進、市民、関係者との連携強化を盛り込んだ総合的な文化財保存活用施策を定めるもの。

作成にあたっては市内の指定・未指定を問わず多様な文化財について、行政・市民・民間団体が連携することで、地域一体となって文化財を守り、活かす体制の構築を図り、各地域が誇る文化財の継承につなげていくこととする。

2. 計画の期間

令和 8 年度から令和 15 年度までの 8 年間とする。

3. 計画の基本目標（将来像）、方向性

本計画では、地域の歴史文化をかたちづくる地域の財産を「栃木市の宝」と定義し、栃木市の宝を後世に伝えていくことが、地域に誇りを持ち、未来を創ることにつながると考え、計画の基本目標である将来像を次のとおり掲げる。

『『栃木市の宝』を知り、分かちあい、守り、活かすことで、
人とひと、過去と今をつなぎ、未来を創る』

また、将来像を実現するための方向性として、栃木市の宝を「知る」、「分かちあう」、「守る」、「活かす」の 4 つを設定した。

○方向性 1 「栃木市の宝」を知る

栃木市の宝の魅力を市民が知ること、地域を誇りに思う気持ちや愛着が芽生えることから、栃木市の宝を周知するための調査研究等の取り組みを進める。

○方向性 2 「栃木市の宝」を分かちあう

栃木市の宝の魅力や個性を市民が分かちあうことで、地域に対する誇りや愛着が深まることから、情報発信手段や情報発信の場を充実させる。

○方向性 3 「栃木市の宝」を守る

地域住民の誇りとなる栃木市の宝を守るため、ひと・手段・財源などを充実させるとともに、所有者以外の多様な主体が参加できる仕組みづくりを進める。

○方向性4 「栃木市の宝」を活かす

栃木市の宝の公開による活用、観光面での連携を強化するとともに、栃木市の宝の魅力をより高めることができる人材育成を進める。

※本計画は以上4つの方向性を踏まえ、地域一体となって栃木市の宝の継承につなげていく。

4. 施策体系

将来像	施策の方向性	施策方針
『栃木市の宝』を知り、 分かちあい、 守り、 活かすことで、 人とひと、 過去と今をつなぎ、 未来を創る	1 知る	1 栃木市の宝の把握調査を行う
		2 指定・未指定・登録文化財の詳細調査を行う
		3 調査研究に携わる専門職員の増員を図る
	2 分かち合う	4 情報発信を充実させる
		5 栃木市の宝を学ぶ機会、場所を充実させる
	3 守る	6 栃木市の宝を守る担い手をつくる
		7 栃木市の宝の収蔵施設を充実させる
		8 栃木市の宝の防犯・防災対策を進める
		9 栃木市の宝を守るための財源の確保を図る
	4 活かす	10 栃木市の宝の新たな活用法を検討する
		11 栃木市の宝を活かした観光機能の充実を進める
		12 「栃木市の宝」を活かすための人材を育成する

5. 計画の推進

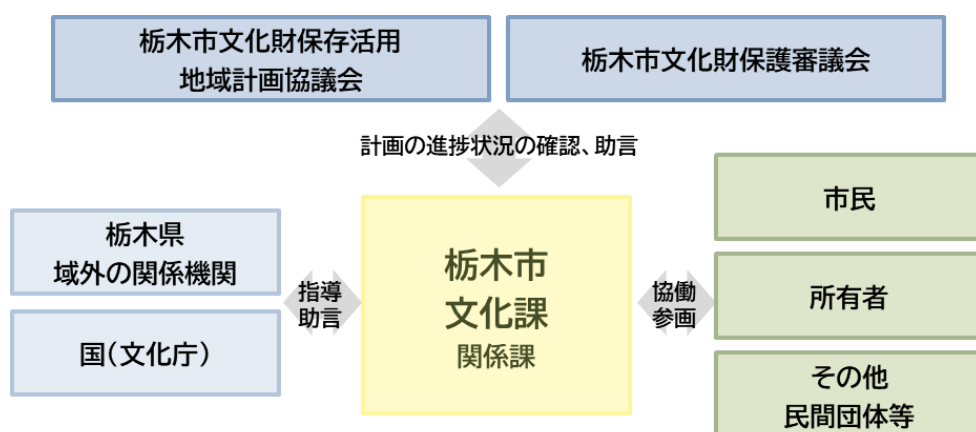
市は国、県に指導・助言を受けながら関係機関をはじめ市民・団体と連携し、計画推進を図る。

また、PDCA サイクル（計画・実施・評価・改善）の考え方のもと事業の管理を的確に行う。

毎年度の事業の進捗管理については、自己評価を栃木市文化財保護審議会と栃木市文化財保存活用地域計画協議会（以下協議会）へ報告を行い、計画の進捗状況や達成状況を諮る。

中間年度には、協議会で見直しを行う。進捗状況や達成状況を把握し、自己評価を行い、その成果を当該事業の改善及び他の事業や次の展開への反映に努め、必要に応じて事業計画を改訂する。

計画期間終了年度には、最終の評価を行い、次期計画の作成に向けて、最終的な進捗をとりまとめる。



6. パブリックコメントの実施期間

令和7年12月25日（木）～令和8年1月23日（金）

【問合せ先】

文化課 文化財係
担当：小松原 小澤
電話：0282-21-2497